

一歩

新潟市立大形中学校
3学年だより No.53
令和元年6月20日発行
文責:立川 宏

応援者の成長

先日的一步で選手の成長について述べました。応援者は成長ないのかという疑問を持った人もいるかもしれません。もちろん、応援者にも成長はあります。

運動部で活動していて、選手にならなくてもいいと思っている部員はどれくらいいるのでしょうか。初めはきっと全員が強くてカッコいい選手を目指していることでしょう。しかし、現実には甘くありません。体力や技量の違いにより、自分より優れた選手がチーム内にいるとレギュラー争いで敗れ、選手として大会に出場することができない場合もあります。また、大会に出場できたとしても、必ず勝てるわけではありません。接戦であっても勝てればいいです。負けることもあります。勝てそうな相手に逆転負けや、意表を突かれて負けてしまうこともあります。



選手は、試合に出場できます。選手になりたかったのになれない部員は、選手以上の苦悩を味わっているかもしれません。自分ではチームメイトより上手だと思っているのに、選手に選ばれない理不尽さを感じることもあるかもしれません。



自分が選手に選ばれない中、毎日の自分の活動に一生懸命に取り組み、大会で選手の仲間を応援できる気持ちは、人間として他の者を励ますことが出来る「素晴らしい人間性」がなければできません。自分のことだけ考え、行動するのは全然違います。応援を熱心に行っている人は、選手が自分のプレーに全力を尽くす努力と異なる人間的に大きく成長しているものを感じます。

「嫌だからやらない」「面倒だからやらない」といった好き嫌いを優先する人には、絶対に理解できないおおらかな人間性が応援を一生懸命にできる人には備わっています。

かつて、選手で1日目に試合に負けたら、2日目に会場に来ない生徒がいました。少し雨が降ったら、体調不良を理由に欠席する生徒がいました(※後日、ずる休みをしたと本人が友達に話していることが伝わってきて、本当の欠席理由がわかりました)。このように自分の出番がないから、条件が悪いという理由で、物事を投げ出すような身勝手な選手もときにはいます。そういった選手とくらべると、応援で会場に行き、仲間を一生懸命に応援できる人がいかに素晴らしいか理解してもらえるでしょうか。



選手は、自分が選手になったと引き替えに、選手になれなかった人がいることに気づき、その人の分もがんばるような気持ちを持ってもらいたいものです。また、一生懸命に応援をしてくれる仲間感謝できるような選手になってほしいものです。

表舞台に出るのは選手です。しかし、そのチームや集団を支えてくれているのは、応援者のおかげかもしれないのです。



サッカー部 おめでとう

昨日とおととい、陸上競技部とサッカー部が大会を行ってきました。

サッカー部は、予選リーグ2位になり、24日(月)に行われる勝者だけが参加できる大会3日目に進むことができました。おめでとうございます。24日も全力を出し、素晴らしい結果を残せるよう、また県大会出場権を勝ち取れるようがんばってください。

